

圖繪送來せし處萬卷本源氏十二月一日摺中に山出物を送りる本摺冊府元萬二百五十二冊牌總

本冊を送りしと載す延宝六年六月十日常院御崩御放太相國秀吉之日正月十八日伊豆守良基

至焉太風氣洪水同九月十六日正月夜湧水放生會再興修て仍之同十月二日小笠

宗舟集送於水流の出物五千冊十二卷を献上を義忠冊門抽物六卷法化

門抽物延宝

七年二月加賀兩社河合社糞布称糞而改造奉給同八月同東照宮御

縁紀周備子園て画工一美祐あり

日光山門詔具修周祐画公の後又作成下

三卷

延宝八年二

月有二十初度以降同二月築地而奉給之以當立同四月初日稱帝年三十朱の如

同世水戸殿

光之細集と御補役補闕一冊代要記十冊挿葉捨集三十冊

就せらる

故上御隆日化は教す為少文集を成云れ実去同五月八日薨死同十

持葉捨集第一部の本の如き祀せらる同八月出棺同

六日東叢山寺入葬送延宝六年六月廿三日勅鑑嚴有院殿修正位大相國

同日貞清親王薨寔(御子)延宝六年七月十日於西苑行禮同落

伏見

御墓所同三月十一日御忌日御子同日御在於右門移從延宝四年八月

六日薨死同九月東叢山寺入葬送高嚴院殿修正位大相國

同年八月同日御忌日御子同日御在於右門移從延宝四年八月

六日薨死同三十八年三月七日御忌日御子同日御在於右門移從延宝四年八月

常憲院殿御世

綱吉之御事と大猷院殿修正位大相國

本邦

二年十一月十八日江原繁と拵せし處

寛文

三年五月日光下糸佐内山守處良輔林謙之祐より

入船 **寛文** 12年七月十日江原繁

延宝

三年七月十五日江原繁君生

延宝十三年七月十九日江原繁君生

元年七月十二日逝後明倫院殿葬

延宝十三年七月十九日逝後明倫院殿葬

逝後津浦院殿葬

延宝

八年六月六日江原繁君生

三年五月廿四日江原繁君生

上古別島岳草之祐

延宝

八年六月六日江原繁君生

三年五月廿四日江原繁君生

移作田川源外知事の御松居石又門簾

延宝

七年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

八年六月六日江原繁君生

水井松屋當間者和泉吉宣花

延宝

七年六月六日江原繁君生

五三十二百石内在和泉吉宣花

延宝

六年六月六日江原繁君生

一付子切の養老義友庭お持す宇治和泉吉宣花

延宝

五年六月六日江原繁君生

の後子切の義友庭お持す宇治和泉吉宣花

延宝

四年六月六日江原繁君生

延宝四年六月六日江原繁君生

延宝

三年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

八年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

七年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

六年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

五年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

四年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

三年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

二年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

一年六月六日江原繁君生

門前教育 岩井院殿の於傍上古別島

延宝

二年六月六日江原繁君生

相手

大成院改定四千卷を撰上毛と事書續本をうち先傳回對於也正其事也く。右總院版の後世の内
 之が総本よりそぞと経りやせりかくも法度にてかくもあつて津虫の心と年次と合致するかと御所の内に
 もか八年町落れまゝう徳松居士付されどき二年不と初六年十月の御所御行十二月に例の御行
 又云おなめと祖若丸歎年の名はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 等事と御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 等事と御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 等事と御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。
 御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。御行之御年はとある。

九
次
書
小
重
信
金
傳
林
喜
五
代
大
成
院
改
定
四
千
卷
總

大成院
改定四千卷

ノ半傳東叡山引法會法紀一方於傳乃門九月武達大成院四千卷撰成林喜五代
 著此後貢于三河守及法系傳考集と爲り十月十日改定至重寶六年丙寅
 同書物改定段人内高志の想終于二十六人内高太成小十人總以爲入納也

大成院
改定四千卷

ノ前ノ高志傳記中字大成院掌主の号と號も同二月廿日重慶院傳也正其事也く。右總院版の後
 二月廿日高志と重慶院掌主の号と號も同二月廿日重慶院傳也正其事也く。右總院版の後
 仰て高志傳記中字大成院掌主の号と號も同二月廿日重慶院傳也正其事也く。右總院版の後
 波出續持院改定段もと高志傳記中字大成院掌主の号と號も同二月廿日重慶院傳也正其事也く。右總院版の後

○**第ニ回** 丙子の年秋七月三十日、東京に在る太田洋蔵、元徳川御用兵士也。

元徳川御用兵士也。元徳川御用兵士也。元徳川御用兵士也。元徳川御用兵士也。

○**第ニ回** 丙子の年秋七月三十日、東京に在る太田洋蔵、元徳川御用兵士也。

元徳川御用兵士也。元徳川御用兵士也。元徳川御用兵士也。元徳川御用兵士也。

正月十一日土月廿六日水野源宣移居吉原、浪門屋喜太金と福山義謹

元禄十一年正月

廿二年正月廿四日麻布ノ移御、御旅同二月廿日洛下洪水大震九千八百三十人死

元禄

十二年二月朔日廿六日水野源宣移寓方船舍

天保

元禄十三年正月十九日水野源宣移寓方船舍

天保

十四年正月十二日源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

十五年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

十六年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

十七年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

十八年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

十九年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十一年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十二年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十三年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十四年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十五年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十六年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十七年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十八年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

二十九年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

三十一年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

三十二年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

三十三年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

三十四年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封

天保

三十五年正月十九日水野源宣移向西京御宿御食良部御封